

# 年間行事予定

- 1月 2日(金) 新年法要 午前11時~12時 午後1時半~2時半
- 2月 2日(月) ニコニコ法話会 午後1時半~3時
- 3月 2日(月) ニコニコ法話会 午後1時半~3時
- 3月 2日(日) 春季彼岸会法要 午前11時~12時 午後1時半~2時半
- 23日(月) 春季彼岸会法要 午前11~12時
- ＜春季彼岸会期間 3月17日(火)~23日(月)＞
- 4月 2日(木) ニコニコ法話会 午後1時半~3時
- 5月 2日(土) 降誕会・永代経法要(ニコニコ法話会を兼ねております) 午後1時受付開始(午後1時半~2時半終了)
- 親鸞聖人の誕生をお祝いする降誕会法要と、ご先祖を始めとする有縁の方々を追悼し、永代にわたって感謝する永代経法要を合同でお勤めします。
- 6月 2日(火) ニコニコ法話会 午後1時半~3時
- 7月 2日(木) ニコニコ法話会 午後1時半~3時
- 8月 15日(土) お盆法要
- 16日(日) お盆法要
- 8月 20日(木) 法徳寺子ども会 午後1時~7時
- 9月 2日(水) ニコニコ法話会 午後1時半~3時
- 9月 23日(水) 秋分の日 秋季彼岸会法要 午後11時~12時 午後1時半~2時半
- ＜秋季彼岸会期間 9月20日(日)~26日(土)＞
- 10月 2日(金) 念仏奉仕・ニコニコ法話会 午後1時半~3時
- 門信徒の皆様で、本堂・接待所・境内の清掃等をお願いしております。
- 10月 9日(金) 報恩講準備・遠夜法要 午後5時~6時
- 10日(土) 報恩講日中法要 午前11時
- 浄土真宗で一番大切な法要です。親鸞聖人のご命日を偲び感謝申し上げる法要で、二日間にわたり行なわれます。
- 11月 2日(月) ニコニコ法話会 午後1時半~3時
- 11月 12日(木) 築地本願寺報恩講団体参拝 終日
- 12月 2日(水) ニコニコ法話会 午後1時半~3時
- 都合により日時等を変更する場合がありますのでご了承下さい。
- 《その他の行事》初参式(赤ちゃんの初参り) いつでも受付しています。
- 七五三 お寺で七五三のお祝い出来ます。
- 毎月2日、ニコニコ法話会が開催されています。読経、法話がございます。
- どなた様もご参加出来ます、参加費無料です、お気軽にご参加下さい。

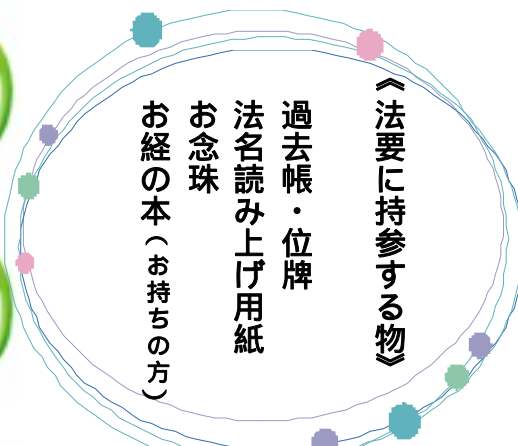
# 新年法要のご案内

平成21年1月2日(金)

第一回 午前十一時~十二時  
第二回 午後一時半~二時半

(ご都合のよい回にお参りください)

毎年、お正月には、新年法要をお勤めしております。一年の始まりを、すがすがしい思いで「阿弥陀如来」の御前で、お参り致します。浄土真宗の初詣はお寺に参り、阿弥陀如来の救いに感謝致します。読み上げ、読経 法話がございます。



# 法徳寺だより

第90号 発行  
浄土真宗本願寺派  
法徳寺  
厚木市岡田5-4-12  
TEL 046-228-3962  
住職 伊東英俊  
法話 伊東英幸  
編集 伊東祐子

## 平成21年度 年回表

一周忌	平成二十年	往生
三回忌	平成十九年	往生
七回忌	平成十五年	往生
十三回忌	平成九年	往生
十七回忌	平成五年	往生
二十三回忌	昭和六十二年	往生
二十五回忌	昭和六十年	往生
二十七回忌	昭和五十八年	往生
三十三回忌	昭和五十二年	往生
五十回忌	昭和三十五年	往生

仏事のご依頼は、お早めにお願致します。日時は、皆さんがお参りにご都合の良い日で宜しいと思えますが、土・日への、ご依頼が集中しておりますので、出来れば平日にお勤めいただく有り難いです。また、年回にあつたてない年でも、ご命日にはお参り致しますので、お気軽にお申し込み下さい。ホームページから、Eメールでも、お申し込み出来ます。

## 築地団体参拝

平成20年11月13日  
東京の築地本願寺の報恩講へ法徳寺から総勢53名で、団体参拝いたしました。毎年、大変好評をいただいている参拝ですが、今年も午前中に本願寺の報恩講を参拝しました。

午後からは、築地の場外市場で買い物を楽しみました。その後、今年、NHKドorama「篤姫」にちなみ、いざ江戸城へ。皇居見学をいたしました。天候にも恵まれ、有意義な一日を過ごすことができました。

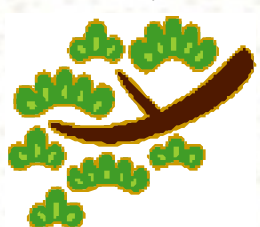
当日ご参加下さった皆様、ありがとうございました。また毎年、午後のコースを変えて行っております。来年も是非ご参加下さい。



### 来年度もどうぞ

宜しくお願致します。お正月の初参りには、多数のご参詣をお待ちしております。

法徳寺住職 伊東英俊  
副住職 伊東英幸  
法徳寺伊勢原分院 毛利祥生  
八千代聖苑主管 伊東知幸



毎年、11月の後半になりますと、喪中はがきを送られてきます。歳を重ねると共に、毎年増えていくようです。私もだんだん、そういう歳になってきたんだと感じます。私の両親、そして、妻の両親も、今、元気でいてくれるのが当たり前ではなく、有難いことだと感じます。

現在、97歳で現役のお医者さん、日野原先生は、「幸福とは、失われて初めて気付くものなのです。」とおっしゃっておられます。大切な方を失ってみないと、その方の本当の有難みは、分からないのでしょうか。日野原先生は、築地本願寺の近くにある、聖路加病院の理事長をされています。今でも、年間、170回の講演を行っておられるそうです。そして、講演の予定は、101歳になる、四年後まで、入っているそうです。しかし、若い頃は、体が弱く、京都帝国大学の医学部に入学した、一年生の時に、結核にかかり、以後、八ヶ月ばかり、トイレにも行けない寝たきりの状態で過ごされました。その病気の経験から、病気が知らずの医者よりも、患者さんの気持ちにわかるようになった、何事も、自分で経験してみたいと身に沁みてわからない、私は、若い頃に結核を患ったことが、有難いことだと感じるとおっしゃってられます。

大切な方を失うことにより、健康の有難さ、命の大切さ、人の優しさなど学ぶことも多くあるのではないかと思います。死は、他人事ではありません。今日かもしれません、明日しれません、今、生かされているのです。でも、死は、ゴールではありません、むしろ、仏様としての始まりなのです。死を越えていく道を、阿彌陀様が用意してくださっています。浄土へ生まれたいら、愛する方、親しき方と出会う、死は、誰しもが、嫌なことかもしれないませんが、浄土は、生きる希望になり、少し楽しみにもなると思っています。安心していのち終わっていきける道は、安心して生きていきける道なのです。未来が明るければ、今も明るいのです。大切な方と浄土で再会されたら、沢山の土産話に花を咲かせ、褒めてもらえるよう生き方を、今、させてもらいましょう。

先日、築地本願寺にお参りした後、有楽町にあります、書家 相田みつをさんの美術館に行ってきました。私は以前から相田さんが大好きで、既に、何回も美術館を訪れています。そこで、今回、あらためて勉強になったのが、「願」ということでした。

お正月には、お寺や神社に沢山の方が、お願い事でお参りに行かれると思います。そのお願い事は、すべて、自分の事でしょう。それは、「願」ではなく、「欲」なのだ、と、相田さんは説かれます。「願」とは、私中心の欲ではなく、他の幸せを願うこと、例えば、世界のすべ

ての人々が幸せになるように願う、これが「願」です。しかし、私たちの「願」は、すべて、自分のことばかりです。

私は、この言葉を拝見して、「願」ということは、とても難しいと思いました、自分にはとても出来ない、それが、出来るのは、仏様しかいらつしやらないと思いましたが、でも、相田さんは、どんな小さな「願」でもいいから、心ひそかに、持ち続けることが大切だと書かれていました。それが、必ず人生を、よき方向に動かしてくれまます。なぜなら、他人の幸せを願うことにより、心が綺麗になるからです。そして、自分の醜い本物の姿を知ることが出来るからです。

この世を、娑婆世界と言いますが、娑婆とは、インドの昔の言葉、サハを語源とし、意味は、自由のない、堪え忍ばねばならない世界という意味です。ですから、辛抱の出来ない方は、生きられないのです。けれども、どのほど、辛抱しても、苦勞しても、生まれてきてよかつたと言えなければ寂しい人生です。人間にとつて、食べるもの食わなくても、着るものを着なくても、この人といれば幸せ、そういう人に出会うことが一番の幸せであります。こ



案外、この人に出会ったために、苦勞が倍になったという出会いばかりではないでしょうか。私の周りには、素晴らしい人がいないのか？そんなことはないのです。皆さんの周りにも素晴らしい人が、沢山いるはずなんです。しかし、私たちは、その素晴らしい人に出会わないのです。それは、自分の本物の姿を知らないからです。

あいつがつまらん、こいつがつまらんと、他人のことばかり言っていたけれども、自分が、一番つまらんやつだった。と、少しでも、自分の姿が見えたら、こんなつまらん自分に、こんな素晴らしい仲間がいてくれた、家族がいてくれた、こんなお粗末な私に、素晴らしい出会いがあった、こんな人々に出会えただけで、生まれてきた甲斐があった。それが、本当の喜びを得ること、喜びでありまます。私たちは、本当の喜びを得ること、自分自身に会わないといけません。自分自身に会うことは、仏の教えを聞いて、我が姿を照らされて、初

めて分かるのです。

娑婆ですから、いやでも苦勞しないといけません、思いつく通りにはいかないのだけれども、それでも、辛抱して、一日一日を、大切に生きねばならないと思う方は、浄土へ生まれる方であり、既に、救われた方なのです。

阿彌陀様のはたらきを、「本願力」といいます。本願とは、究極的な「願」です、そして、「力」とははたらきです。阿彌陀様は、どうしたら、すべての生きとし生けるものを浄土へ救うことが出来るか、長い長い間、考えられ、修行されたとお経には説かれています。その本願は、既に「力」となって、今、私たちにはたらいて下さっています。

私たちは、南無阿彌陀仏と称えておりますが、これは、阿彌陀様が、言葉の仏さまとなって、私の口に現われて下さっているのです。阿彌陀様は、南無阿彌陀仏という呼び声となり、常にはたらき続けて下さっております。その意味は、「おまえをどんなことがあっても、浄土へ救う」というものです。しかし、南無阿彌陀仏をただ、称えればいいのではなく、その言葉の中にあるお心を聞くことが大切です。南無阿彌陀仏と称える際、「どうか、浄土へお救いください」というお願いではなく、「阿彌陀様お任せします、お救い下さいましてありがとうございます」とお礼で称えて下さい。浄土真宗では、浄土へ生まれさせたいと阿彌陀様が、先に願ってくださっているのですから、ただ、お任せなのです。

阿彌陀様は、私が、お願いしたわけでもないのに、阿彌陀様の方から、先に「どうか、浄土へ生まれたいと信じたい、私に任せてほしい」と願われております。なぜなら、私には、浄土へ生まれたいという気持ちは起こらないからです。私は、浄土がどんなに素晴らしい世界であるか知らず、私に、浄土がどんなに素晴らしい世界であるか知らず、いつまでも、生きていたいし、愛する人と離れたくないのです。しかし、その願いは、空しく、誰も、願いどおりに人生はいきません。その私の本物の姿を、既に、よくよく、存知して下さい、「どうか、安心なさい」とはたらいてくださる如来様がいてくださるからこそ、自分に嘘をつかず、安心して生きていけます。浄土真宗では、自分の本物の姿に気づかせて頂き、阿彌陀様の先手の救いにお任せすることが救いです。それには、まずは、阿彌陀様の教えを聴聞する場に座らせて頂くことが大事であります。私の思う、本当の幸せとは、安心して、我が命をお任せ出来る、仏様との出会いだと思えます。

(副住職 伊東 英幸)

**ご案内**  
平成二十一年度 維持金  
三千五百円のお誘い

今年も何卒、ご協力お願い致します。ご納入頂いたお金は、法徳寺だより」の発行・郵送だけでなく、お寺の護持発展、教化活動の為に使用させて頂いております。

**法徳寺の宗門**  
法徳寺には、敷地内に永代合祀墓がございます。  
ご納骨をご希望の方は、お気軽にご相談下さい。

**法徳寺伊勢原分院**  
伊勢原市桜台三十一番九  
：0463(91)2471

毎月第2日曜日  
午後3時～4時 法話会  
(どなたでも参加できます。参加費はありません。お気軽にご参加下さい。)

寺報を発行しております。  
(ご希望の方は、無料で郵送致します。)

ホームページを開設しております。

**法徳寺**  
<http://homepage3.nifty.com/houtokuji/>

**立德寺** (法徳寺伊勢原分院 毛利祥生)  
<http://www.ryuutokuji.com/>

**八千代聖苑** (善林寺八千代別院 伊東知幸)  
法徳寺住職の次男 伊東知幸  
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~yachiyoaien/>